(通巻3907号/毎週日曜日発行/2026.11.1) キリスト品川教会 品川区北品川4-7-40 TEL03(3443)1721

泉のほとり

●三位一体後第二十二主日

今月の詩編「第百二十九編」

我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
我らの神、主は聖なる方。



キリストの業に自分をささげ

使徒パウロは、獄中にいながらも、今の境遇がよくなるようにとの願いは一切書かれておらず、唯々願っていたのは、フィリピの人たちの「たましい」の救い、傷のないいけにえとして自らをささげる、このキリストの従順に生きることでした。前回のテモテに続き、この箇所で、使徒パウロが名をあげている「エパフロディト」という人にも目を向けたいと思います。

パウロ先生は、彼を「私の兄弟、協力者、戦友」と呼んでいます。兄弟でありながら、共に働く同労者、また戦場で共に命をかけて戦う戦友と。兄弟から、同労者、また戦友へと続く呼び名には、エパフロディトをどれほどに特別、重んじているのかが強調されていると感じます。

更に「あなたがたの使者として、私の窮乏のときの奉仕者」と述べられました。使者という言葉は、聖書ではおもに「使徒パウロ」の「使徒」と表される言葉です。これは私の洞察ですが、この「使徒」という語は「遣わした方、人に従って、遣わされたところで、そこの人のためになすべき使命を果たす」という意味合いを持つことばです。キリストが、十字架の死に至るまで従順で、遣わされたところで、民のためにご自身をささげられたように、エパフロディトは、フィリピ教会から遣わされ、使徒パウロのために仕える。そのために自らを惜しまなかった人です。

フィリピからローマまで、最短と思われる道のりで１２００キロ以上の距離を旅したのではないか。この旅だけを考えても、フィリピ教会の思いを実行するために、自らを差し出した人と思いませんか。自己のことを優先にするこの世においては、自らを顧みない愚かな判断、行動とも思われるものです。しかし、これが愛ではないでしょうか。十字架に見られるこの愚かさこそ、主イエスの救い、知恵ではないでしょうか。

そのエパフロディトが重い病気になり、教会はそれを知って心配し、エパフロディトは心配させてしまったことに心を痛めていました。獄中にいながらフィリピ教会のことを心配するパウロ、真実にフィリピの人たちを心配するテモテ、パウロのことを思い、人を遣わす教会、その任を自ら進んで負うエパフロディト。「めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい」と語られていたことばが、既にこの手紙に登場する人たちに実現されているのを見させられているようです。

「神は彼を憐れんでくださいました。彼だけでなく、私をも憐れんで、悲しみを重ねずに済むようにしてくださいました。」直訳しますと、「悲しみの上に悲しみを持つことがないよう」という文章です。単に自分の負担が軽くなったという意味ではありません。

そして使徒パウロは「彼のような人々を敬いなさい」と付言し、「彼はキリストの業に命をかけ、死ぬほどの目に遭ったのです」と語られました。「へりくだって、死に至るまで従順でした」と、そのキリストの業が、このエパフロディトにも重ねて見えるものではないでしょうか。人のことを思う純真な心での愛、自らを惜しまないキリストの業に生きることが、教会が進むべき道、真理、命であることが示されているところではないでしょうか。

最後に、パウロ先生は再会によって「悲しみが和らぐでしょう」と言われました。厳密には「より悲しみが少なくなる」という言葉です。パウロ先生自身、人が知らない大きな喜びに満たされていた人です。しかし、それゆえに、この地上のどのような喜びの出来事も癒すことのできない、深い悲しみがあったと思います。喜びを知るゆえの悲しみです。３章１８節で「今また涙ながらに言いますが」と語られたように。私たちも使徒パウロが知る喜びゆえに、悲しむ、執りなす、そのために自らをささげる人へと、たましいを向けていきたいと願います。

（フィリピ二章二五〜三〇節 黄 允湜 牧師）

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、
愛と交わりを通して
お互いに成長する教会

《2026年度
教会全体課題》

神さまによって
示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を
祈り求める
ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○礼拝後、信仰者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌を持ってお集まりください。

○運営委員会及び、各小委員会がそれぞれ行われます。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《成長感謝礼拝の
お知らせ》

次週一一月八日の子ども礼拝は、礼拝堂にて成長感謝礼拝としてお捧げいたします。

大人の皆さまもご一緒に、神様が教会に与えてくださっている子どもたちのことを感謝し、その成長をお祈りいただきたく、ご案内申し上げます。九時一〇分から朝の讃美、九時二〇分から一〇時五〇分ごろまで礼拝をいたします。

《教会記念日ホール集会
Ｚｏｏｍ配信のお知らせ》

再来週一一月一五日は、教会記念日礼拝をお捧げいたします。礼拝後のホール集会では、スライドショーで教会記念日の出来事を振り返る予定です。今回はホール集会をＺｏｏｍで配信することになりました。教会事務所からＺｏｏｍのＵＲＬをお送りしますので、遠方などでホール集会に参加できない方は、ぜひご参加ください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百二十九篇】都に上る歌。

イスラエルは言うがよい。
「わたしが若いときから
彼らはわたしを苦しめ続けたが
わたしが若いときから
彼らはわたしを苦しめ続けたが
(司・会)
彼らはわたしを圧倒できなかった。
耕す者はわたしの背を耕し
畝を長く作った。」
主は正しい。
主に逆らう者の束縛を
断ち切ってくださる。
シオンを憎む者よ、皆恥を受けて退け。
抜かれる前に
枯れる屋根の草のようになれ。
刈り入れても
手を満たすことはないように。
穂を束ねても
ふところを満たすことはないように。
傍らを通る者が
(司・会)
「主はあなたがたを祝福される。
わたしたちも主の御名によって
あなたがたを祝福する」と言わないように。

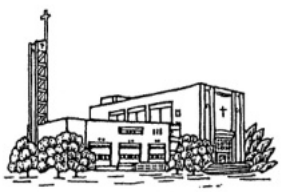
《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教　「足を引きずる者となっても」
聖　書　創世記32章23～32節
説教者　宮間 彰広 兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・礼拝堂)
説　教　「子どもを愛される主イエス」
聖　書　マルコ10章13～16節
説教者　吉村 和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)
讃美歌　6番　142番
説　教　「キリストを知るすばらしさゆえに」
聖　書　フィリピ3章1～11節
説教者　黄 允湜 牧師





主日礼拝 (午前１０時３０分)

讃美歌　　２６９番　　４９４番
説　教　　「災いをも用いられる神」
聖　書　　使徒８章１ｂ～２５節(新約 P.227)
司　式　　石川 一 兄
聖餐司式　黄 允湜 牧師
説教者　　吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「神はわがやぐら」S.ｶﾙｸ=ｴﾗｰﾄ

○讃美歌２６９番

1.つみの重荷を イエス君にぞ
　われはことごと 任せまつる
　あがないの血に わが汚れを
　しみものこらず 潔めたまわん

2.つかれしたまも つよき君の
　み手にいだかれ み胸によらん
　うきもなやみも ただまかせて
　こころやすけく 世をば過さん

3.主なるキリスト イマヌエルよ
　いかにその名の うるわしきや
　風にそよげる 春の花の
　かおりとばかり 世ににおえり

4.こころやさしく 愛に富める
　きみの御性を えさせたまえ
　あまつつかいに こえをあわせ
　たえなる御名を 歌いまつらん
　　アーメン

○聖歌隊による讃美

「たてよいざたて」（讃美歌380番）G.J.Webb 曲

1．たてよ、いざたて　主のつわもの
　見ずやみ旗の　ひるがえるを
　すべてのあだを　ほろぼすまで
　君は先立ち　行かせ給わん
2．たてよ、聞かずや　主のつのぶえ
　いざたたかいの　門出いそがん
　君が隊(て)につく　この身なれば
　雲なすあだも　何か恐れん
3．たてよ、わが主の　力により
　神のよろいを固くまとい
　みたまのつるぎ　うちかざして
　おのが持ち場に　いさみ進め
4．たてよ、いくさは　やがておわり
　とわの勝ち歌　高く歌い
　尽きぬ命の冠を受け
　さかえの君と　ともに治めん
　アーメン

○讃美歌４９４番

1.わが行くみち いついかに
　なるべきかは つゆ知らねど
　主はみこころ なしたまわん ※
（※くりかえし）
そなえたもう 主のみちを
ふみてゆかん ひとすじに

2.こころたけく たゆまざれ
　ひとはかわり 世はうつれど
　主はみこころ なしたまわん ※

3.あらうみをも うちひらき
　すなはらにも マナをふらせ
　主はみこころ なしたまわん ※　　アーメン

聖餐曲「我ら皆唯一の神を信ず」J.P.ｽｳｪｰﾘﾝｸ

後奏曲「マエストーゾ」M.E.ﾎﾞｯｼ